



<https://www.city.kokubunji.tokyo.jp/>

東京都国分寺市 武蔵国分寺跡(第770次調査)

—国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—



東京都国分寺市 武蔵国分寺跡(第770次調査) —国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和6年(2024)3月 国分寺市教育委員会



令和6年(2024)3月
国分寺市教育委員会

東京都国分寺市

武蔵国分寺跡(第770次調査)

— 国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

令和6年(2024)3月

国分寺市教育委員会

序 文

国分寺市内には、46箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地があり、これまでに実施した発掘調査は1,000件に迫っています。その中で、「史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡」を含む、武蔵国分寺跡（No.19 遺跡）は、国分寺崖線の上下を取り込み東西約1.6km、南北約1.3kmにわたる、市内でもひときわ規模の大きい遺跡です。

本遺跡内には、野川の水源のひとつである真姿の池湧水群があり、旧石器時代から近世にわたって水と共に生活した人々の痕跡が重層的に確認されています。近代になると、旧日本国有鉄道の教習所が当該地に移転し、昭和36年には中央鉄道学園と改称されるなど日本鉄道史においても重要な地域です。

国鉄民営化により昭和61年度末に学園が閉鎖されると、約22haの敷地を含んだ一帯の跡地整備が開始されます。整備前の調査では約380mにわたって古代の東山道武蔵路が確認され、市民や関係者の努力が実り、遺構の全面保存が図られるなど、当市の文化財保護の歴史を語る上でも重要な場所です。平成14年には都立武蔵国分寺公園の開園をはじめ、その後は都立多摩図書館、東京都公文書館、国分寺消防署など多くの公共施設が集中する地となりました。

今回の調査は、史跡武蔵国分寺跡の北方にあたる場所で、国分寺市役所新庁舎建設工事に伴う発掘調査として実施された武蔵国分寺跡第770次調査です。調査では、中央鉄道学園時代の主要建物の痕跡と、うど穴と想定される遺構、縄文時代の陥し穴などが見つかりました。旧石器・縄文時代は集落の周縁で狩猟の場として使われていたことがわかり、市教委としては11年ぶりに市民の方に広く公開しその成果を見ていただくことが叶いました。

今回の調査成果が、市民の皆様の埋蔵文化財や地域の歴史に対する理解を深める資料としていただければ幸いです。多くの方々の御尽力により、記録保存調査を行うことができ、今後もこれらの文化財を後世に引き継いでまいりたいと存じます。

最後に、発掘調査から本報告書の刊行にあたり、御協力をいただきました施工業者、地域の皆様をはじめ、御指導を賜りました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

令和6年（2024）3月

国分寺市教育委員会
教育長 古屋 真宏



写真1 新庁舎建設イメージ



写真2 現場見学会俯瞰（北東から）

例 言

1. 本書は、国分寺市泉町二丁目2-9に所在する「武蔵国分寺跡遺跡」(No.19 遺跡) 第770次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、国分寺市新庁舎建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。
調査及び整理作業、報告書作成は国分寺市教育委員会を主体として、以下の調査体制で実施した。
令和3～4年度(事前調整及び本発掘調査、発掘調査報告書の作成)
国分寺市政策部公共施設整備推進室(事業者) 国分寺市教育部ふるさと文化財課(調査担当)
テイケイトレード株式会社(発掘調査支援業務委託受託業者)
令和5年度(発掘調査報告書の作成)
国分寺市政策部公共施設マネジメント課(事業者) 国分寺市教育部ふるさと文化財課(調査担当)
テイケイトレード株式会社(発掘調査支援業務受託業者)
3. 発掘調査の実施にあたっては、事業者である政策部公共施設整備推進室がその費用を全額負担することとした。
4. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成は、下記の期間に実施した。
立会調査 令和4年3月18日・令和5年7月6日・令和6年2月15日
発掘調査 令和4年3月16日から同年8月31日
整理調査 令和4年9月1日より令和6年3月31日
5. 発掘調査は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課の史跡係長依田亮一(令和4年度)・同係主任寺前めぐみ(令和3年度)が担当した。
6. 本書の編集は、伊藤千洋・西口 喬(テイケイトレード株式会社)・ふるさと文化財課史跡係寺前めぐみ(令和5年度)が担当し、中野 純・平塚恵介・野田悠真・富山宏水(令和4～5年度)・江里口省三(令和4～5年度)・酒井美帆(令和3年度)・山下加奈子・西山節子の補佐を得た。
7. 本書の執筆部分は以下のとおりである。
第1章第1節 寺前めぐみ(国分寺市教育委員会)
第1章第2・3節 伊藤千洋(テイケイトレード株式会社)
第2章第1節 伊藤千洋
第2章第2節 寺前めぐみ
第3章 伊藤千洋
第4章 パリノ・サーヴェイ株式会社
第5・6章 寺前めぐみ
第7章 野口 淳(公立小松大学 次世代考古学研究センター 特任推教授)
中村良介(国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター 総括研究主幹)
第8章 伊藤千洋
なお、第3章中の第21表・第63～66図は市教委の提供による。

8. 石器石材の鑑定には有限会社考古石材研究所の柴田徹氏に、自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

9. 遺跡の略記号は「MK770」とし、図面・写真や出土遺物の注記等は標記を用いた。

10. 発掘調査における出土遺物および図面・写真等の記録類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。

11. 本書作成にあたり、以下の方々に御指導・御協力を賜った（敬称略・順不同）。

安部玄将 上敷領久 奥原哲志 太田和子 坂誥秀一 木村 徳 首藤佳祐 高木謙一
瀧澤明日香 田端栄治 田端美津枝 中藤浩之 中村良介 中山真治 西木浩一 西田尚央
野口 淳 野口 舞 日高 慎 山口紗英 株式会社こうそく 株式会社セット設計
公益財団法人鉄道総合技術研究所 公立小松大学次世代考古学研究センター
国分寺市政策部公共施設整備推進室（令和5年度：公共施設マネジメント課）
国分寺市政策部市政戦略室 国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター
竹中工務店 竹中・石本・セット設計特定建設共同企業体 テイクイトレード株式会社
東京都教育庁地域教育支援部管理課 東京都公文書館 東京都立多摩図書館
パリノ・サーヴェイ株式会社 有限会社考古石材研究所

12. 発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の参加者は、以下のとおりである。

阿部 薫 天田広樹 荒井妙子 石原沙織 大瀬律心 大野節子 小澤芳博 小田嶋邦子
鹿志村百合子 加田真行 加藤俊樹 川久保正秋 菊池 宏 木下秀一 窪山雅巳 桑原文次郎
小坂信雄 小谷泰則 小林完士 近藤元史 齊藤秀雄 佐久間僚子 櫻井古都音 佐藤昭仁
椎野たつ子 白井利幸 菅原暖日 杉山美奈 鈴木奈津子 高岡 実 高橋恵子 高橋尚敏
高橋直美 田口和幸 武井京子 竹谷博俊 富永恵喜 中島慶太 仲島道史 永田真弓
行方とし子 西口 喬 庭山祐典 長谷川貴司 長谷川裕 馬場美樹 林裕美子 平田紘来
廣瀬昌彌 松井啓一 山崎 正 吉原昭彦 若月裕志

凡 例

1. 基本層序については、武蔵野台地標準層序にて示した。
2. 遺構の表記は、以下の略号を用いた。また、縄文時代の遺構については、末尾に「J」を付した。
SD：溝状遺構 SK：土坑 SX：性格不明遺構 P：小穴
3. 遺構平面図・断面図で使用した標高は T.P. (Tokyo Peil) である。国家座標については世界測地系座標を使用している。
4. 調査区内のグリッドは国家座標系に合わせて 5 m × 5 m で設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。
5. 実測図の縮尺については、それぞれの図に記した。
(なお、縄文土器・土師器・須恵器の縮尺は、細片のため 4/5 とした。)
6. 遺構平面図・断面図で使用した線種は以下のとおりである。
——— 遺構上端 —— 遺構中・下端
- - - - 推定線 - - - - - 攪乱
7. 挿図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。
■ 攪乱範囲 ■ 中央鉄道学園レール基礎範囲
8. 遺物観察表において、() は推定値、[] は残存値を表す。また、単位は法量が「mm」、重量は「g」で表記した。
9. 遺構の規模は確認面における数値で、深さも確認面から底部までの深さである。
10. 遺構断面は下記の通りである。

断面形態



目次

巻頭カラー図版

例言

凡例

目次

第1章 調査の概要	1	第5章 国分寺地域の役場・庁舎について	104
第1節 調査に至る経緯	1	(1) 行政単位の変遷	104
(1) 埋蔵文化財発掘の通知の提出に至るまで	1	①国分寺地域の原形	104
(2) 契約手続き	3	②幕末から明治初期の揺籃期	104
(3) 発掘調査から整理作業の経過	3	③「国分寺村」の成立	106
(4) 本体工事以外の立会等の対応	5	④国分寺村の近代化	106
第2節 地理的・歴史的環境	6	⑤国分寺町の誕生	107
(1) 地理的環境	6	⑥国分寺市の誕生	108
(2) 歴史的環境	6	(2) 役場機能の移転	110
第3節 層序	12	第6章 甲武鉄道と中央鉄道学園	113
第2章 調査経過	14	(1) 甲武鉄道の開業と沿線開発	113
第1節 調査経過	14	①甲武鉄道の開通と国分寺駅の開業	113
第2節 発掘調査現場見学会実施報告	17	②中央本線の電化と下河原線	115
第3章 遺構と遺物	24	③国分寺地域の別荘開発	117
(1) 遺構	24	④西国分寺駅の開業	118
①土坑	24	(2) 中央鉄道学園と跡地の開発	118
②性格不明遺構	42	①昭和期の鉄道史	118
③溝	44	②鉄道技術総合研究所	119
④小穴	46	③鉄道学園	121
(2) 遺物	54	第7章 武蔵国分寺跡第770次調査における発掘	
①土器	54	調査現場の3D-LiDAR スキャンと文化財	
②石器	58	デジタルツイン	127
③近現代遺物	70	(1) はじめに	127
(3) SX373 地下室状遺構について	75	(2) 計測機器	127
第4章 自然科学分析	81	(3) 計測対象	128
(1) はじめに	81	(4) 計測成果の公開	129
(2) ローム層の分析	81	(5) 従来方法との差異と3D計測の利点	129
(3) 黒曜石の原産地推定	94	(6) 文化財デジタルツインとしての意義	135
		第8章 まとめ	139

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

奥付

挿図目次

第 1 図	中央鉄道学園全景（南東から）……………	1	第 36 図	P-4 平面・断面図……………	47
第 2 図	発掘調査現場見学会会場（北西から）……	4	第 37 図	P-5 平面・断面図……………	48
第 3 図	観測井戸位置図……………	5	第 38 図	P-6 平面・断面図……………	48
第 4 図	試掘トレンチ配置図……………	5	第 39 図	P-7 平面・断面図……………	49
第 5 図	調査地点位置図……………	8	第 40 図	P-8 平面・断面図……………	49
第 6 図	周辺遺跡……………	9	第 41 図	P-9 平面・断面図……………	50
第 7 図	周辺地形図……………	11	第 42 図	P-10 平面・断面図……………	50
第 8 図	調査全体図・基本層序……………	13	第 43 図	P-11 平面・断面図……………	51
第 9 図	遺構配置図（旧石器時代）……………	15	第 44 図	P-12 平面・断面図……………	51
第 10 図	遺構配置図（縄文時代・その他）………	16	第 45 図	P-13 平面・断面図……………	52
第 11 図	発掘調査現場見学会会場案内図……………	17	第 46 図	遺構外出土縄文土器 1……………	54
第 12 図	発掘調査現場見学会会場 パンフレット 1・4 頁……………	22	第 47 図	遺構外出土縄文土器 2……………	55
第 13 図	発掘調査現場見学会会場 パンフレット 2・3 頁……………	23	第 48 図	遺構外出土縄文土器 3……………	56
第 14 図	SK3513J 平面・断面図……………	25	第 49 図	遺構外出土石器 1……………	58
第 15 図	SK3514J 平面・断面図……………	27	第 50 図	遺構外出土石器 2……………	59
第 16 図	SK3515J 平面・断面図……………	28	第 51 図	遺構外出土石器 3……………	60
第 17 図	SK3517J 平面・断面図……………	29	第 52 図	遺構外出土石器 4……………	61
第 18 図	SK3518J 平面・断面図……………	30	第 53 図	遺構外出土石器 5……………	62
第 19 図	SK3519J 平面・断面図……………	31	第 54 図	遺構外出土石器 6……………	63
第 20 図	SK3520J 平面・断面図……………	32	第 55 図	遺構外出土石器 7……………	64
第 21 図	SK3521J 平面・断面図……………	33	第 56 図	遺構外出土石器 8……………	66
第 22 図	SK3522J 平面・断面図……………	34	第 57 図	遺構外出土石器 9……………	67
第 23 図	SK3523J 平面・断面図……………	35	第 58 図	遺構外出土石器 10……………	68
第 24 図	SK3508 平面・断面図……………	36	第 59 図	遺構外出土遺物 1……………	70
第 25 図	SK3509 平面・断面図……………	37	第 60 図	遺構外出土遺物 2……………	71
第 26 図	SK3510 平面・断面図……………	38	第 61 図	遺構外出土遺物 3……………	72
第 27 図	SK3511 平面・断面図……………	39	第 62 図	遺構外出土遺物 4……………	73
第 28 図	SK3512 平面・断面図……………	40	第 63 図	国分寺市内防空壕位置図……………	77
第 29 図	SK3516 平面・断面図……………	41	第 64 図	国分寺市内の防空壕……………	78
第 30 図	SX373 平面・断面図……………	43	第 65 図	現代うどムロの模式図……………	79
第 31 図	SD443 平面・断面図……………	44	第 66 図	国分寺市内のうどムロ平断面図……………	80
第 32 図	SD444 平面・断面図……………	45	第 67 図	TP12 の重鋳物組成および 火山ガラス比……………	86
第 33 図	P-1 平面・断面図……………	46	第 68 図	TP3 の重鋳物組成および 火山ガラス比……………	87
第 34 図	P-2 平面・断面図……………	46	第 69 図	TP1 の重鋳物組成および 火山ガラス比……………	88
第 35 図	P-3 平面・断面図……………	47			

第 70 図	TP12 の植物珪酸体含量の層位的変化 … 89	第 106 図	鉄道総合技術研究所創立 5 周年記念で 新幹線試験電車 951 譲渡式にのぞむ 本多良雄市長 …………… 120
第 71 図	TP12 の腐植含量の層位的変化 …………… 91	第 107 図	ひかりプラザに搬入された新幹線 …… 120
第 72 図	黒曜石産地一覧 …………… 96	第 108 図	多喜窪通りに面した中央鉄道学園正門 (南から) …………… 121
第 73 図	黒曜石産地推定結果 (1) …………… 98	第 109 図	学園祭風景 (車両実習館前) …………… 121
第 74 図	黒曜石産地推定結果 (2) …………… 99	第 110 図	中央鉄道学園平面図 …………… 122
第 75 図	重鉱物・火山ガラス …………… 102	第 111 図	中央鉄道学園構内写真 …………… 123
第 76 図	植物珪酸体 …………… 103	第 112 図	実習館建設に伴う試験調査 (武蔵国分寺 跡第 108 次調査) …………… 124
第 77 図	行政単位の変遷 …………… 105	第 113 図	西国分寺地区住宅市街地整備総合支援 事業パンフレット …………… 125
第 78 図	町制施行記念祝賀式典 (国分寺尋常高等小学校校庭にて) …… 107	第 114 図	発掘された東山道武蔵路跡 (北から) … 126
第 79 図	国分寺市域の人口推移 …………… 108	第 115 図	整備された東山道武蔵路跡と新庁舎建設 予定地 (平成 22 年撮影) …………… 126
第 80 図	国分寺市章 …………… 109	第 116 図	中央鉄道学園記念碑 …………… 126
第 81 図	恋ヶ窪駅開設 …………… 109	第 117 図	SK3522J 上面・側面図 …………… 129
第 82 図	浄化場 …………… 109	第 118 図	SK3522J 斜め俯瞰図 …………… 129
第 83 図	国分寺町体育館 …………… 109	第 119 図	SK3522J 斜め俯瞰・半裁断面 ・断面線図 …………… 130
第 84 図	国分寺町公民館 …………… 109	第 120 図	調査区全景のカラーオルソ図 (2022 年 7 月 26 日時点) …………… 130
第 85 図	史跡武蔵国分寺跡金堂 …………… 109	第 121 図	部分拡大 (2022 年 7 月 26 日時点) … 131
第 86 図	「役場位置変更ノ件」 …………… 110	第 122 図	カラーオルソ図に陰影表現を 加えたもの …………… 131
第 87 図	町役場新築に伴う地盤調査 …………… 110	第 123 図	陰影図 (2022 年 7 月 26 日時点) …… 132
第 88 図	役場・庁舎位置変遷 …………… 111	第 124 図	陰影図のシェーダー表現 (左: EDL、右: SSAO) …………… 132
第 89 図	現在の本庁第一庁舎 (東から) …………… 112	第 125 図	標高段彩図 …………… 133
第 90 図	現在の本庁第二・第三庁舎 (北西から) 112	第 126 図	標高段彩図の部分拡大 (左) と同範囲に 陰影表現を付加したもの (右) …… 133
第 91 図	顔を出した新庁舎 (南西から) …………… 112	第 127 図	Nz 可視化図 …………… 134
第 92 図	小柳九一郎翁頌徳碑設置を伝える町報 … 113	第 128 図	平面点群密度図 (n=0.1m) …………… 134
第 93 図	小柳九一郎翁頌徳碑の名称部 …………… 114	第 129 図	3DDBviewer 上での新庁舎 3D モデル … 136
第 94 図	国分寺駅を見守る小柳九一郎翁頌徳碑 … 114	第 130 図	3DDB Viewer の「Data Cart」 …… 137
第 95 図	小柳九一郎氏 …………… 114		
第 96 図	甲武鉄道開通当初の駅 …………… 114		
第 97 図	電車開通記念碑 …………… 115		
第 98 図	建物外壁が歪曲したマンション …… 115		
第 99 図	下河原線位置図 …………… 116		
第 100 図	昭和～大正期の別荘 …………… 117		
第 101 図	国立駅に開設された北口 …………… 118		
第 102 図	工事中の武蔵野線 …………… 118		
第 103 図	西国分寺駅建設予定地 …………… 118		
第 104 図	開業した西国分寺駅 …………… 118		
第 105 図	鉄道総合技術研究所 …………… 120		

表目次

第1表	発注者・受注者・市教委による 行程会議	4	第15表	遺構外出土石器観察表9	67
第2表	周辺遺跡一覧表	10	第16表	遺構外出土石器観察表10	68
第3表	発掘調査現場見学会 アンケート集計結果	18	第17表	遺構外出土遺物観察表1	71
第4表	遺構外出土縄文土器観察表1	54	第18表	遺構外出土遺物観察表2	71
第5表	遺構外出土縄文土器観察表2	55	第19表	遺構外出土遺物観察表3	74
第6表	遺構外出土縄文土器観察表3	56	第20表	遺構外出土遺物観察表4	74
第7表	遺構外出土石器観察表1	58	第21表	防空壕一覧表	76
第8表	遺構外出土石器観察表2	59	第22表	重鉱物・火山ガラス比分析結果	85
第9表	遺構外出土石器観察表3	60	第23表	植物珪酸体概査結果	88
第10表	遺構外出土石器観察表4	61	第24表	植物珪酸体含量	89
第11表	遺構外出土石器観察表5	62	第25表	有機炭素分析結果	90
第12表	遺構外出土石器観察表6	63	第26表	黒曜石原産地試料一覧	97
第13表	遺構外出土石器観察表7	64	第27表	黒曜石のスペクトル強度と判別指標値	97
第14表	遺構外出土石器観察表8	66	第28表	黒曜石判定結果	100
			第29表	3DDB Viewer 公開データ一覧	128

写真図版目次

写真1	新庁舎建設イメージ	5	写真20	出土遺物②	21
写真2	現場見学会俯瞰（北東から）	5	写真21	出土遺物③	21
写真3	発掘調査現場遠景（北西から）	19	写真22	出土遺物④	21
写真4	入口	19	写真23	都立多摩図書館企画展示 「子供の本と時刻表でたどる鉄道の歴史」①	21
写真5	受付	19	写真24	都立多摩図書館企画展示 「子供の本と時刻表でたどる鉄道の歴史」②	21
写真6	入場券	19	写真25	都立多摩図書館企画展示「武蔵国分寺跡 指定100周年記念事業 泉町の発掘調査から」①	21
写真7	開会挨拶	19	写真26	都立多摩図書館企画展示「武蔵国分寺跡 指定100周年記念事業 泉町の発掘調査から」②	21
写真8	見学風景	19	写真27	SK3513J 断面（東から）	24
写真9	鉄道学園関連遺構ゾーン	19	写真28	SK3513J 完掘（写真上が北）	24
写真10	鉄道学園写真パネル	19	写真29	SK3513J 調査風景（東から）	24
写真11	国鉄時代写真パネル	20	写真30	SK3513J 調査底部小穴調査風景 （東から）	24
写真12	新幹線0系車両写真パネル	20	写真31	SK3514J 上部断面（南から）	26
写真13	関東ローム層観察ゾーン	20			
写真14	関東ローム層観察ゾーン掘削体験	20			
写真15	縄文時代遺構ゾーン落とし穴	20			
写真16	説明風景	20			
写真17	出土品展示ブース	20			
写真18	出土品説明風景	20			
写真19	出土遺物①	21			

写真 32	SK3514J 下部断面 (南から) ……………	26	写真 71	P-1 断面 (東から) ……………	46
写真 33	SK3514J 完掘 (南から) ……………	26	写真 72	P-1 完掘 (東から) ……………	46
写真 34	SK3514J 完掘 (東から) ……………	26	写真 73	P-2 断面 (北から) ……………	46
写真 35	SK3515J 断面 (南東から) ……………	28	写真 74	P-2 完掘 (北から) ……………	46
写真 36	SK3515J 完掘 (写真上が北東) ……………	28	写真 75	P-3 断面 (東から) ……………	47
写真 37	SK3517J 断面 (南から) ……………	29	写真 76	P-3 完掘 (東から) ……………	47
写真 38	SK3517J 断面 (南から) ……………	29	写真 77	P-4 断面 (南から) ……………	47
写真 39	SK3518J 断面 (南から) ……………	30	写真 78	P-4 完掘 (南から) ……………	47
写真 40	SK3518J 完掘 (南から) ……………	30	写真 79	P-5 断面 (南から) ……………	48
写真 41	SK3519J 断面 (南西から) ……………	31	写真 80	P-5 完掘 (南から) ……………	48
写真 42	SK3519J 完掘 (南西から) ……………	31	写真 81	P-6 断面 (北から) ……………	48
写真 43	SK3520J 断面 (南東から) ……………	32	写真 82	P-6 完掘 (北から) ……………	48
写真 44	SK3520J 完掘 (南東から) ……………	32	写真 83	P-7 断面 (南から) ……………	49
写真 45	SK3521J 断面 (南から) ……………	33	写真 84	P-7 完掘 (南から) ……………	49
写真 46	SK3521J 完掘 (南から) ……………	33	写真 85	P-8 断面 (南から) ……………	49
写真 47	SK3522J 断面 (南西から) ……………	34	写真 86	P-8 完掘 (南から) ……………	49
写真 48	SK3522J 完掘 (南西から) ……………	34	写真 87	P-9 断面 (西から) ……………	50
写真 49	SK3523J 断面 (南東から) ……………	35	写真 88	P-9 完掘 (西から) ……………	50
写真 50	SK3523J 完掘 (南東から) ……………	35	写真 89	P-10 断面 (南東から) ……………	50
写真 51	SK3508 断面 (東から) ……………	36	写真 90	P-10 完掘 (南東から) ……………	50
写真 52	SK3508 完掘 (南から) ……………	36	写真 91	P-11 断面 (南東から) ……………	51
写真 53	SK3509 断面 (西から) ……………	37	写真 92	P-11 完掘 (南東から) ……………	51
写真 54	SK3509 完掘 (東から) ……………	37	写真 93	P-12 断面 (南東から) ……………	51
写真 55	SK3510 断面 (東から) ……………	38	写真 94	P-12 完掘 (南東から) ……………	51
写真 56	SK3510 完掘 (東から) ……………	38	写真 95	P-13 断面 (東から) ……………	52
写真 57	SK3511 断面 (東から) ……………	39	写真 96	P-13 完掘 (東から) ……………	52
写真 58	SK3511 完掘 (東から) ……………	39	写真 97	古代面完掘全景 (上が西) ……………	143
写真 59	SK3512 断面 (北から) ……………	40	写真 98	旧石器試掘トレンチ完掘全景 (上が西) ……	143
写真 60	SK3512 完掘 (北から) ……………	40	写真 99	試掘トレンチ 1 完掘 (上が西) ……………	144
写真 61	SK3516 断面 (東から) ……………	41	写真 100	試掘トレンチ 1 東壁セクション	
写真 62	SK3516 完掘 (東から) ……………	41		(西から) ……………	144
写真 63	SX373 北室部 (南から) ……………	42	写真 101	試掘トレンチ 1 北壁セクション	
写真 64	SX373 完掘 (上が北) ……………	42		(南から) ……………	144
写真 65	SX373 北室部天井 (南から) ……………	42	写真 102	試掘トレンチ 2 完掘 (上が西) ……………	144
写真 66	SX373 東室部 (西から) ……………	42	写真 103	試掘トレンチ 2 東壁セクション	
写真 67	SD443 断面 (南から) ……………	44		(西から) ……………	144
写真 68	SD443 完掘 (南から) ……………	44	写真 104	試掘トレンチ 2 北壁セクション	
写真 69	SD444 断面 (南から) ……………	45		(南から) ……………	144
写真 70	SD444 完掘 (南から) ……………	45	写真 105	試掘トレンチ 3 完掘 (上が西) ……………	144

写真 106	試掘トレンチ 3 西壁セクション (東から).....	144	写真 129	試掘トレンチ 11 完掘 (上が西)	147
写真 107	試掘トレンチ 3 北壁セクション (南から).....	145	写真 130	試掘トレンチ 11 西壁セクション (東から).....	147
写真 108	試掘トレンチ 4 完掘 (上が西)	145	写真 131	試掘トレンチ 11 北壁セクション (南から).....	148
写真 109	試掘トレンチ 4 東壁セクション (西から).....	145	写真 132	試掘トレンチ 12 完掘 (上が西)	148
写真 110	試掘トレンチ 4 北壁セクション (南から).....	145	写真 133	試掘トレンチ 12 西壁セクション (東から).....	148
写真 111	試掘トレンチ 5 完掘 (上が西)	145	写真 134	試掘トレンチ 12 北壁セクション (南から).....	148
写真 112	試掘トレンチ 5 東壁セクション (西から).....	145	写真 135	調査区西壁 (A 地点) (東から).....	148
写真 113	試掘トレンチ 5 北壁セクション (南から).....	145	写真 136	調査区西壁 (C 地点) (東から).....	148
写真 114	試掘トレンチ 6 完掘 (上が西)	145	写真 137	調査区西壁 (E 地点) (東から).....	148
写真 115	試掘トレンチ 6 西壁セクション (東から).....	146	写真 138	調査区南壁 (H 地点) (北から)	148
写真 116	試掘トレンチ 6 北壁セクション (南から).....	146	写真 139	調査前状況 (南西から)	149
写真 117	試掘トレンチ 7 完掘 (上が西)	146	写真 140	仮囲いフェンス看板設置状況 (南から).....	149
写真 118	試掘トレンチ 7 西壁セクション (東から).....	146	写真 141	遺構検出作業風景 (南東から)	149
写真 119	試掘トレンチ 7 北壁セクション (南から).....	146	写真 142	調査区南壁手摺り設置状況 (北西から).....	149
写真 120	試掘トレンチ 8 完掘 (上が西)	146	写真 143	調査区養生状況 (南東から)	149
写真 121	試掘トレンチ 8 西壁セクション (東から).....	146	写真 144	遺構検出作業風景 (南から)	149
写真 122	試掘トレンチ 8 北壁セクション (南から).....	146	写真 145	SX373 調査作業風景 (南から).....	149
写真 123	試掘トレンチ 9 完掘 (上が西)	147	写真 146	見学会準備作業風景① (北西から)	149
写真 124	試掘トレンチ 9 西壁セクション (東から).....	147	写真 147	見学会準備作業風景② (西から)	150
写真 125	試掘トレンチ 9 北壁セクション (南から).....	147	写真 148	見学会全景 (北東から)	150
写真 126	試掘トレンチ 10 完掘 (上が西)	147	写真 149	遺構検出作業風景 (南西から)	150
写真 127	試掘トレンチ 10 西壁セクション (東から).....	147	写真 150	測量作業風景 (北西から)	150
写真 128	試掘トレンチ 10 北壁セクション (南から).....	147	写真 151	試掘トレンチ内作業風景 (北西から) ..	150
			写真 152	コンクリートガラ小割り作業風景 (南から).....	150
			写真 153	出土鉄道レール集積状況 (北から)	150
			写真 154	中央鉄道学園野球場フェンス跡 出土状況 (東から)	150
			写真 155	土壌サンプル採取作業風景 (東から) ..	151
			写真 156	調査区全景 (北東から)	151
			写真 157	調査区全景 (南西から)	151
			写真 158	図面作成作業風景 (小平整理室内)	151
			写真 159	調査区から北を望む (南から)	151

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

(1) 埋蔵文化財発掘の通知の提出に至るまで

国分寺市泉町二丁目102-9（地番表記）に所在する東京都所有の「旧鉄道学園跡地」の一角において、国分寺市役所新庁舎建設計画の検討が本格的に始まったのは平成29年度のことである。国分寺市役所は戸倉一丁目6番地1に所在し、現庁舎は昭和37年度に建設した旧本庁舎を耐震問題から平成23年から24年度に解体し、以後は戸倉を中心としながら、光町・泉町・本町・西恋ヶ窪・西元町など部署によって分散した庁舎形態を採ってきている。このような中、市は平成31年3月に『国分寺市新庁舎建設基本構想』（以下、「基本構想」と略）を策定し、新庁舎の位置について、現在の「現庁舎用地」に建て替えを行うか、「泉町所有地」に移転するかの2案を提示し、さらに平成31（令和元）年度に入ってから、候補地を1箇所に絞るための検討を始めたのである。

上記の経過をふまえ、令和元年（2019）9月13日に開催された市議会第3回定例会公共施設等総合管理特別委員会で市長が「新庁舎建設候補地は泉町所有地が望ましい」旨を表明し、11月には公共施設整備推進室が計4回にわたって「新庁舎建設候補地決定に関する市長所信説明会」を開催し、市長自ら市民に向けて説明を行った。泉町を選定した理由としては、①災害対応の関連機関である国分寺消防署や国分寺市医師会の災害対策本部が置かれるいずみプラザ、避難場所・活動場所としての活用が想定される都立武蔵国分寺公園などの関連機関・施設と連携し、災害時等の効果的な対応を可能にすること、②泉町に移転することで現庁舎跡地を有効活用し、公共施設の再編を行う契機を生み出せること、③新庁舎の最短の竣工を実現可能にする建設工事を実現することができ、財政負担を抑制することができること、の3点を挙げている。続く12月20日に開催された市議会第4回定例会本会議では、新庁舎を泉町所有地に移転するための「国分寺市役所位置変更に関する条例」が、地方自治法第4条に該当することから、出席議員の3分の2以上の者の同意を必要とする特別多数議決にて可決された。

また、市は令和2年8月に平成31年の基本構想を受け継ぐ形で『国分寺市新庁舎建設基本計画』を策定し、新庁舎の基本理念及び基本方針並びに事業計画を定めた。この中で、コスト縮減や資材の



第1図 中央鉄道学園全景（南東から）（昭和62年）

先行発注等による工期短縮が最も期待できることから、新庁舎建設は設計と施工を一括契約で発注するデザインビルド方式（DB方式）を採用する方針も掲げた。

これを受け、令和2年8月7日には、国分寺市政策部新庁舎建設担当課長から国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課（以下、「市教委」と略）課長宛に、「国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査について（依頼）」として、発掘調査に係る仕様書の作成、期間の想定、管理・指導について事前調査の依頼があった。

当該地は国分寺市泉町二丁目2-9（住居表示）にあたり、敷地総面積は12,623.72㎡である。国分寺崖線上の武蔵野段丘面に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である「武蔵国分寺跡遺跡」（No.19遺跡）の範囲内である。武蔵国分寺中枢伽藍地域の北側にあたり、敷地西隣には平成22年7月に国の史跡に附指定された「東山道武蔵路跡」が縦走している。また国分寺崖線上には西側から多摩蘭坂遺跡・武蔵台遺跡（府中市）・武蔵台東（府中市）遺跡・多喜窪遺跡などの旧石器・縄文時代の遺跡が連綿と展開し、その一部を構成している地域でもある。さらに西国分寺駅開発事業に伴い、駅南側一帯には古代から中世の寺院跡である恋ヶ窪廃寺跡が発見されたほか、鎌倉街道・伝祥応寺跡など中世の遺跡も残されている。

ところで、当該地を含む泉町二丁目周辺地域は、「鉄道学園跡地」として知られているが、その地歴は昭和28年（1953）に日本国有鉄道中央鉄道教習所の本所がこの地に移転したことに始まっている。同教習所は、昭和32年（1953）に教育訓練設備の充実を目的として大規模な整備を行い、昭和35年（1960）には今回の発掘調査範囲にかかる（第一）車両実習館をはじめ、（第一）電力実習館が建設されている。昭和36年（1961）4月1日からは教育養成の効率と効果の一段の向上のため「中央鉄道学園」と改称され、主に新幹線関係の用地事務、工事要員、車両検修及び運転要員などの育成が行われた。その後も敷地北東部には校舎や寮など、西部には陸上競技場や野球場など体育施設を増設した。発掘調査範囲内には昭和52年（1977）に第二電力実習室・第二車両実習館、54年（1979）に新幹線電車実習館、56年（1981）に総合実習館・電圧実習館を次々と建設し、施設の充実化を図った。しかし昭和61年（1986）に国鉄の分割民営化方針により、約30万人の国鉄職員を送り出した学園は、昭和62年（1987）3月31日で閉鎖されることとなった。

学園跡地約22.4haと郵政省住宅用地約6.0haを合わせ、再開発対象である国鉄清算事業団用地の面積は約32.4haにも及び、昭和39年の市制施行以来の初めての大規模開発であるとともに、西国分寺駅に近接するという好立地であったことから、市は昭和62年度に特定住宅市街地総合整備促進事業を開始し、「国分寺市西国分寺周辺広域調査委員会」を立ち上げるなど速やかに跡地利用の調査を進め、平成2年（1990）には「土地利用に関する計画」を策定した。その中では、「分割による一般売却をさせない」、「史跡公園や湧水群と調和した、歴史性、文化性の高い内容とする」と掲げられ、市からのこれらの要望は、同年2月27日開催の国鉄清算事業団資産処分審議会で決定されたことで、跡地は総務省・東京都・国分寺市などに売却されることとなった。平成3年度（1991）の予備調査で東山道武蔵路跡が確認されたことから、5年度（1993）から実施した大規模な発掘調査では、約400mという規模で東山道武蔵路跡が発見され、その大半を地中保存するとともに国史跡に附指定することとなった重要な地域である。

当該地にかかるこれらの地歴を考慮し、8月7日の事務連絡に対し、市教委は9月17日付埋蔵文化財仕様書（案）や掘削範囲、遺構などの断面模式図、三者協定、周辺調査履歴（旧石器時代・縄文時代・歴史時代）等を回答した。また相前後して、東京都財務局財産運用部活用促進課長から市教委に対して、文化財保護法第94条の基づき8月25日付2財財活第284号にて事前の地下埋設物掘削調査による「埋蔵文化財発掘の通知」が提出された。市教委は、8月27日に「工事立会」の事前判断を申請者に回答すると同時に、東京都教育委員会（以下、都教委と略）への進達を行った。都教委

からは9月4日付1961号にて都財務局及び市教委へ「工事立会」するよう通知が発せられた。現地の工事立会は12月7日・14日に実施した。

このような経緯の中で、令和3年11月29日付で事業者である国分寺市長井澤邦夫（担当課：公共施設整備推進室）より同法第94条の規定に基づく発掘調査の通知が市教委に提出された（国教教ふ収第671号）。市教委は、既往調査成果からと旧石器時代から現代に至るまで遺跡が発見されると想定し、新庁舎建設にかかる調査については「発掘調査」として実施する旨意見を添えて都教委へ進達を行った。それを受け、都教委は12月21日付3教地管理第3638号にて工事着手前に発掘調査を実施するよう通知があった。

（2）契約手続き

発掘調査の実施にあたっては、事業者である公共施設整備推進室がその費用を全額負担することとした。発注方法については、公共施設整備推進室との協議の上、市教委が過去の発掘調査成果を参考に仕様書を作成し、公共施設整備推進室が発掘調査支援業者へ委託することとした。また公共事業であることから、法第99条に基づく調査として市教委を調査担当者となり、発掘調査支援業者と連携し、その監督は公共施設整備推進室とする体制で臨んだ。なお、新庁舎建設という市にとって極めて公共性が高い性質の事業であることから、市教委は適切な水準の調査を行うとともに、市民に対し積極的な現場公開を行うことを依頼している。

仕様の作成にあたっては、都立小金井特別支援学校仮設校舎（MK698次調査）・都立多摩図書館（MK686次調査）・東京都公文書館（MK718・722次調査）・国分寺消防署（MK747次調査）・第四小学校跡地（MK645次調査）・第四小学校用地（MK431・446・460・500・506次調査）に伴う発掘調査成果を考慮して、古代を中心に縄文時代・旧石器時代を対象として調査を実施することとした。範囲は、新庁舎本体及び地下駐車場、並びにインフラ等敷設箇所とし、その面積を約6,400㎡と算出した。また調査深度については、地下駐車場の掘削深度（地表下約5.5m）もしくはX層までを対象とし、旧石器時代の調査は市基本層序第IV層から試掘トレンチを複数設定して遺跡の存否を確認することとした。

なお、新庁舎建設がDB方式を採用したため、発掘調査の仕様の検討も本体工事の設計業務と併行して行った。試算上約2,500㎡発生すると予測した排出土の処理は、原則随時場外へ搬出する仕様とし、一度に全面掘削で調査を行い、最終的には埋め戻しを行わない状態で公共施設整備推進室に引き継いだため、調査期間及び費用の縮小化を図ることが叶った。

これまでの協議をふまえ、市教委は9月27日に仕様書と添付資料を作成し、公共施設整備推進室に提出した。同室は10月に複数の発掘調査（支援）業者から見積書を徴取し契約手続きを行い、市で実績のある業者を中心に指名競争入札を行った結果、落札したテイケイトレード株式会社と市は「国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査支援業務委託」として令和4年1月25日に契約を締結している。履行は締結翌日より令和6年3月31日までとした。

（3）発掘調査から整理作業の経過

調査着手にあたっては、令和4年2月8日より公共施設整備推進室（発注者、令和5年度は公共施設マネジメント課）・テイケイトレード株式会社（受注者）・市教委（調査担当者）の三者で工程会議を行った。調査報告書作成終了まで計14回開催した工程会議は第1表に示す。

発掘調査は、文化財保護法第99条に基づき、市教委ふるさと文化財課史跡係長依田亮一（令和4年度）と同係主任寺前めぐみ（令和3年度）、同係長寺前めぐみ（令和5年度）を調査担当者として、令和3年3月16日から8月31日にかけて実働116日で実施した。なお、調査にかかる事前の周知

第1表 発注者・受注者・市教委による行程会議

回数	日にち	内 容
第1回	令和4年2月8日	実施計画について
第2回	令和4年3月2日	実施計画書、桜仮植え・立会、近隣周知について
第3回	令和4年3月10日	実施計画書・工程表確認、桜伐採について
第4回	令和4年3月22日	実施計画書・工程表確認、周知・準備工について
第5回	令和4年4月14日	実施計画書確認、重機追加・進捗状況について
第6回	令和4年5月10日	進捗状況・現場掲示・仮囲い延長について
第7回	令和4年5月30日	工程表確認、進捗状況・現場見学会について
第8回	令和4年6月22日	工程表確認、進捗状況・現場見学会について
第9回	令和4年7月21日	工程表確認、契約変更について
第10回	令和4年8月24日	工程表確認、現場終了・整理作業について
第11回	令和4年10月3日	工程表確認、発掘調査概報・仮囲い延長について
第12回	令和4年11月8日	進捗状況・報告書編集方針について
第13回	令和5年6月9日	進捗状況・報告書作成について
第14回	令和5年10月4日	進捗状況・報告書作成について



第2図 発掘調査現場見学会会場（北西から）

は3月2日頃に近隣に対して周知文を配布するとともに、調査開始については令和4年3月15日号市報（No.1419）に掲載した。

調査区は掘削深度が現地表面から約5mにも及ぶことを想定して北側にスロープを設定し、全周の調査区壁面は約60度の傾斜で法面を作り、旧石器時代の試掘坑は1～2mごとに段掘りを行うなど、安全を確保して進めた。表土は重機にて除去し、旧国鉄中央鉄道学園時代の建物コンクリート基礎などを一部搬出した後、武蔵野台地標準土層の第Ⅱ層からは人力で慎重に掘削を行い、古代と縄文時代の遺構確認を行った。さらに掘り下げた旧石器時代の試掘坑については、調査区内に12箇所設け（第4図）、第Ⅲ層から第Ⅹ層まで掘削して遺構の有無・分布の確認を行った。検出された各遺構は限界深度まで人力にて掘削を行い、平面実測・断面実測・写真撮影などの記録作業を行った。平面実測及び遺物出土地点の記録に際しては、トータルステーションにて座標値を記録した。測量基準は世界測地系公共標値を用い、標高はT.P.（東京平均海面）の値を使用した。

発掘調査期間中の6月26日には、市民対象の現場見学会を開催し、315人の来場を得た。詳細は第2章第2節に記す。

さらに、発掘調査情報の記録として、野口淳氏（金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員：当時）と中村良介氏（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター総括研究主幹）に御協力を賜り、7月14日及び8月26日に発掘調査現場の3次元点群計測を実施した。詳細は第7章に記す。

調査後は仕様に基づき、法面をブルーシートで保護し発生土の養生を行った上で、埋め戻さずに現地を公共施設整備推進室へ引き渡した。発掘調査現場は仮囲い塀を残置して入口部を施錠し、8月31日に発掘調査現場から撤収が完了した。最終的な調査総面積は6,248.49㎡である。

現地調査終了後には、発掘調査支援業務委託の受託事業者であるテイケイトレード株式会社小平整理事務所において、市教委が担当者として主導のもと、遺物・図面・写真整理等を行い、引き続き報告書の作成・編集作業を行った。12月に国分寺市教育委員会・テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部の連名にて『武蔵国分寺跡第770次調査概報—国分寺市新庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査支援業務委託—』を発行している。

なお、調査により発見した遺物（コンテナ1箱）については、令和4年9月6日付け国教教ふ発第80号にて「埋蔵物の発見について（通知）」を市教育長より小金井警察署長に提出し、令和4年9月5日付け国教教ふ発第81号にて市教育委員会教育長より東京都教育委員会教育長へ「埋蔵文化財保管証の提出を行っている。

(4) 本体工事以外の立会等の対応

令和3年12月より湧水・地下水調査を行うため、公共施設整備推進室により敷地南東隅に観測井戸が設置されている。さらに発掘調査の着手と相前後して、多喜窪通り沿いに植えられている調査地内の桜6本のうち、樹木医による診断を経て、東から1本目と3本目の伐採を行ったことから、3月18日に立会を実施した。

令和5年度には付帯設備工事に伴い、公共施設マネジメント課より7月5日付け文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出された(国教教収第333号)。これに伴い、7月6日・令和6年2月15日に立会を実施している。



第3図 観測井戸位置図



第4図 試掘トレンチ配置図

第2節 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

本遺跡のある国分寺市は、島嶼部の除く東京都全域のほぼ中央に位置し、東は小金井市、南は府中市・国立市、西は立川市、北は小平市と隣接しており、地形的には、関東平野の南西部に広がる武蔵野台地上に立地している。武蔵野台地は、北東を荒川支流の入間川、南を多摩川の沖積低地により画された東西50km、南北20kmを測る青梅市付近を頂点に扇状に形成された国内最大級の洪積台地である。台地は、古多摩川の侵食による河岸段丘でその大半を占める上位の武蔵野段丘と下位の立川段丘に分かれる。また、武蔵野段丘の南縁は、立川段丘との比高差10～15mの国分寺崖線と呼ばれる段丘崖となっている。崖線は、武蔵村山市残堀付近から始まり、立川市、国分寺市を北西から南東へと通過し、さらに小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を通り世田谷区南端付近まで連なっている。

本調査地区は、JR西国分寺駅の南東方向に占地する旧国鉄中央鉄道学園跡地の南西部に位置している。北には恋ヶ窪谷、南には国分寺崖線を臨む武蔵野段丘面上に立地しており、標高は約79m前後である。南方向の崖線下には国指定史跡『武蔵国分寺跡』があり、当該地区は、その北西地区の一画をなしている。

北の恋ヶ窪谷は、武蔵野段丘面に深く刻まれた野川の開析谷であり、谷には、日立製作所中央研究所構内の湧水池をはじめ野川の源流となる数々の湧水地がある。また、国分寺崖線下には現在も湧水地が点在し、湧水量が豊富な一画が「お鷹の道・真姿の池湧水群」として全国名水百選選定地となっている。また、尼寺北西の「黒鐘谷」やJR中央線国分寺駅南西の「押切間」など、崖線を挟む幾つもの開析谷が形成され、「お鷹の道・真姿の池湧水群」を始め各所の湧水を集めて東流する清水川（元町用水）が野川に合流する。

(2) 歴史的環境

遺跡周辺には段丘の発達と湧水地という地理的条件からか、旧石器・縄文時代の遺跡群と古代律令期以降の遺跡群に集約できる数多くの遺跡が分布している。

旧石器時代では、調査地区南西の崖線上に位置する礫群や細石刃・ナイフ形石器・尖頭器などが検出された多摩蘭坂遺跡、複数の層、特に南関東最古と考えられているX層の石器群が確認された武蔵台遺跡、北方には日本最初の旧石器時代遺跡である群馬県岩宿遺跡以前に石器が採集された熊野郷遺跡、東には花沢遺跡、殿ヶ谷戸遺跡、西には日影山遺跡などが点在している。さらに東方の野川流域沿いには石器編年の基礎が築かれた野川遺跡をはじめ、「野川流域遺跡群」として認識される、小金井市のはげうえ遺跡、同市西之台遺跡、同市前原遺跡、同市野川中州北遺跡、三鷹市東京天文台構内遺跡、同市羽根沢台遺跡、恋ヶ窪遺跡等、学史上著名な遺跡が数多く分布している。

縄文時代も草創期から後期まで数多くの遺跡が展開する。特に中期になると大規模な集落が展開されるようになる。恋ヶ窪東遺跡は、縄文時代草創期から後期にかけて長期にわたり営まれた大集落である。武蔵台遺跡から武蔵台東遺跡は中期前葉の五領ヶ台式の集落であり、勝坂期では恋ヶ窪遺跡、羽根沢遺跡、多喜窪遺跡が著名である。後期になると遺跡数は減少し、晩期にはほとんど遺跡は見られなくなる。

弥生時代には花沢西遺跡で弥生時代中期の土器片が出土しているのみである。

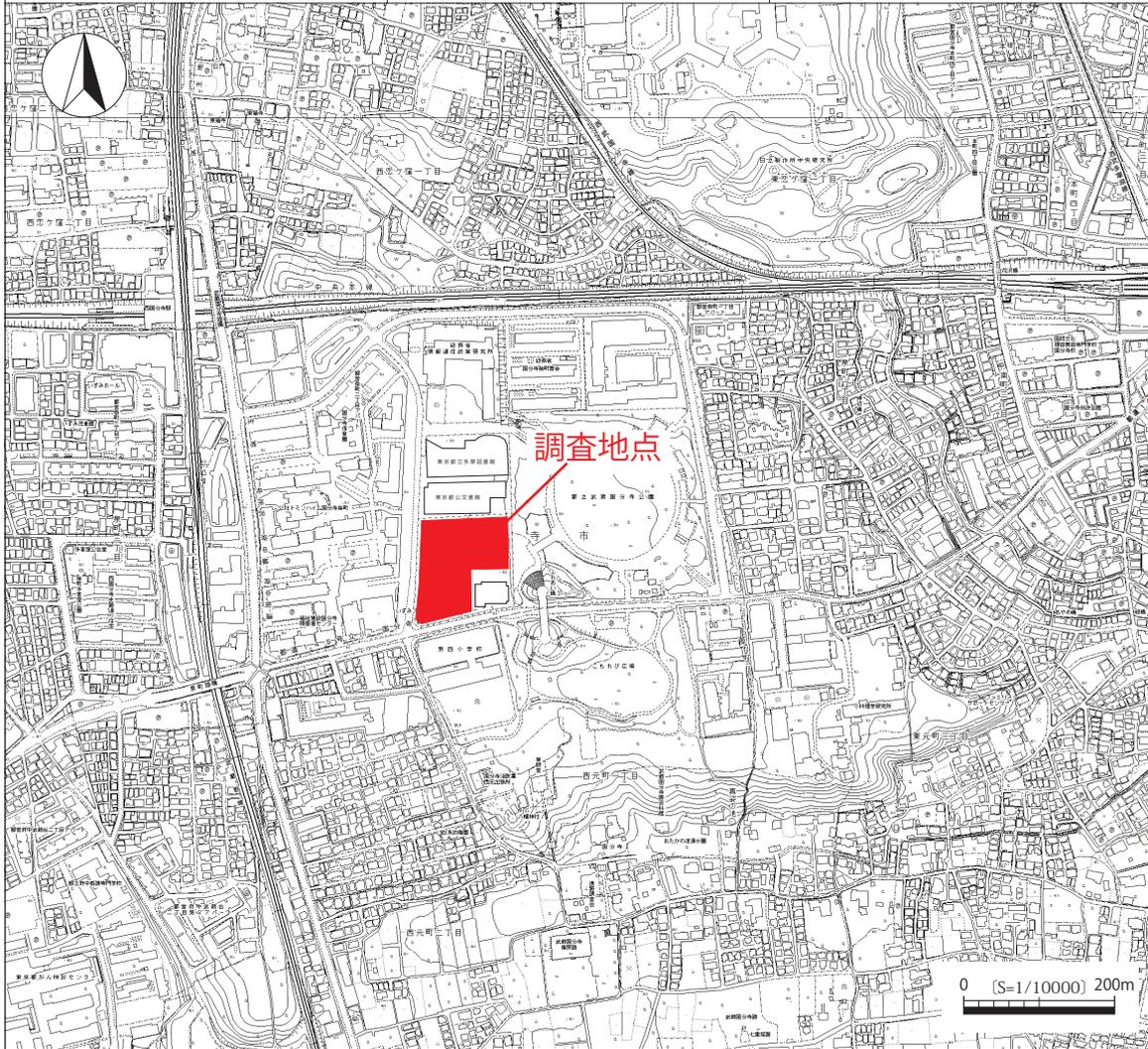
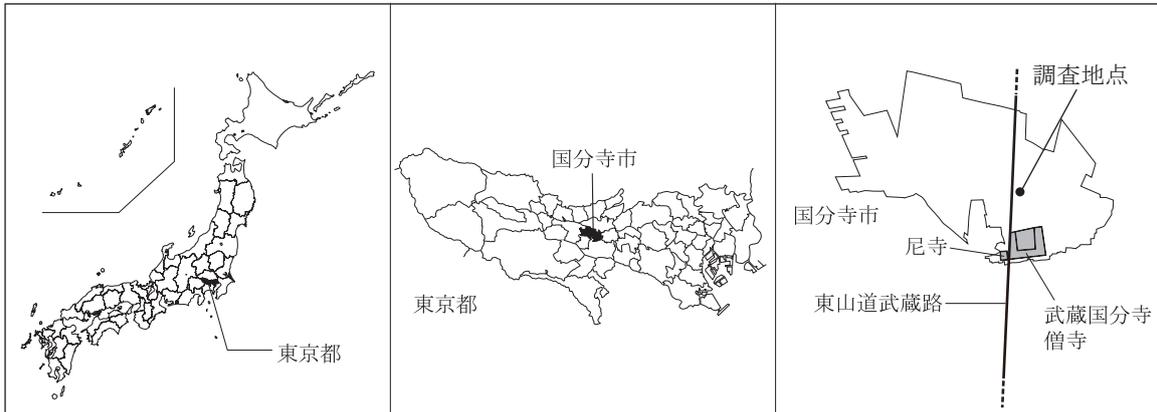
古墳時代についても弥生時代同様遺跡数が少なく、武蔵台東遺跡で古墳時代前期の土坑が検出されている程度である。後期から終末期には崖線沿いに横穴墓が検出されていることから、集落の存在が推定されている。

奈良・平安時代では、調査区の南方崖線下に市名の由来にもなった武蔵国分僧寺跡があり、その西には現府中街道を挟んで国分尼寺跡がある。両寺は、立川段丘面を中心に崖線斜面にかけて伽藍を配し、寺域の範囲は、両寺を合せると東西 900m、南北 550m に及ぶ。寺の周辺には、寺の建立・維持に関わったと思われる人々の集落群が、南北 1.5km、東西 2km の広がりを持ち国指定史跡『武蔵国分寺跡』として広範囲に形成されている。また、僧寺と尼寺の間には、平成 22 年に国史跡に附指定された古代の官道、「東山道武蔵路」が南北に通過している。「東山道武蔵路」は、幅 12m の両側溝を持つ直線道路遺構として認識されている。調査地点とは隣接しており、鉄道中央学園跡地に立地している。また、国分寺跡より南方に約 2.6km の府中市大国魂神社付近には国衙の推定地があり、その位置は、近年の発掘調査の成果から、神社境内から東方の「京所地区」（府中市宮町二～三丁目）と呼ばれる一帯にあったことがほぼ確定されている。国衙を中心とした「武蔵国府域」は、東西約 3.7km、南北約 1.2km の範囲と推定され、竪穴建物跡約 2000 軒、掘立柱建物跡約 400 軒など、該期の遺構が多数検出されている。

以上のように、古代律令期には、本遺跡周辺は、国分寺と国府との一体化の中で武蔵国の生活・文化の中心地であったことが窺い知れる。その後、武蔵国分寺が衰退する時期については、発掘調査の結果から、寺院地、伽藍地内に竪穴建物跡が多く進出する 10～11 世紀代と推定されている。また、文献上では、元弘 3 年（1333 年）に、足利尊氏の討幕に呼応して上野国で挙兵した新田義貞軍と鎌倉幕府軍との間で戦われた分倍河原の合戦に際し国分寺も焼失したとされる記述が残っている。

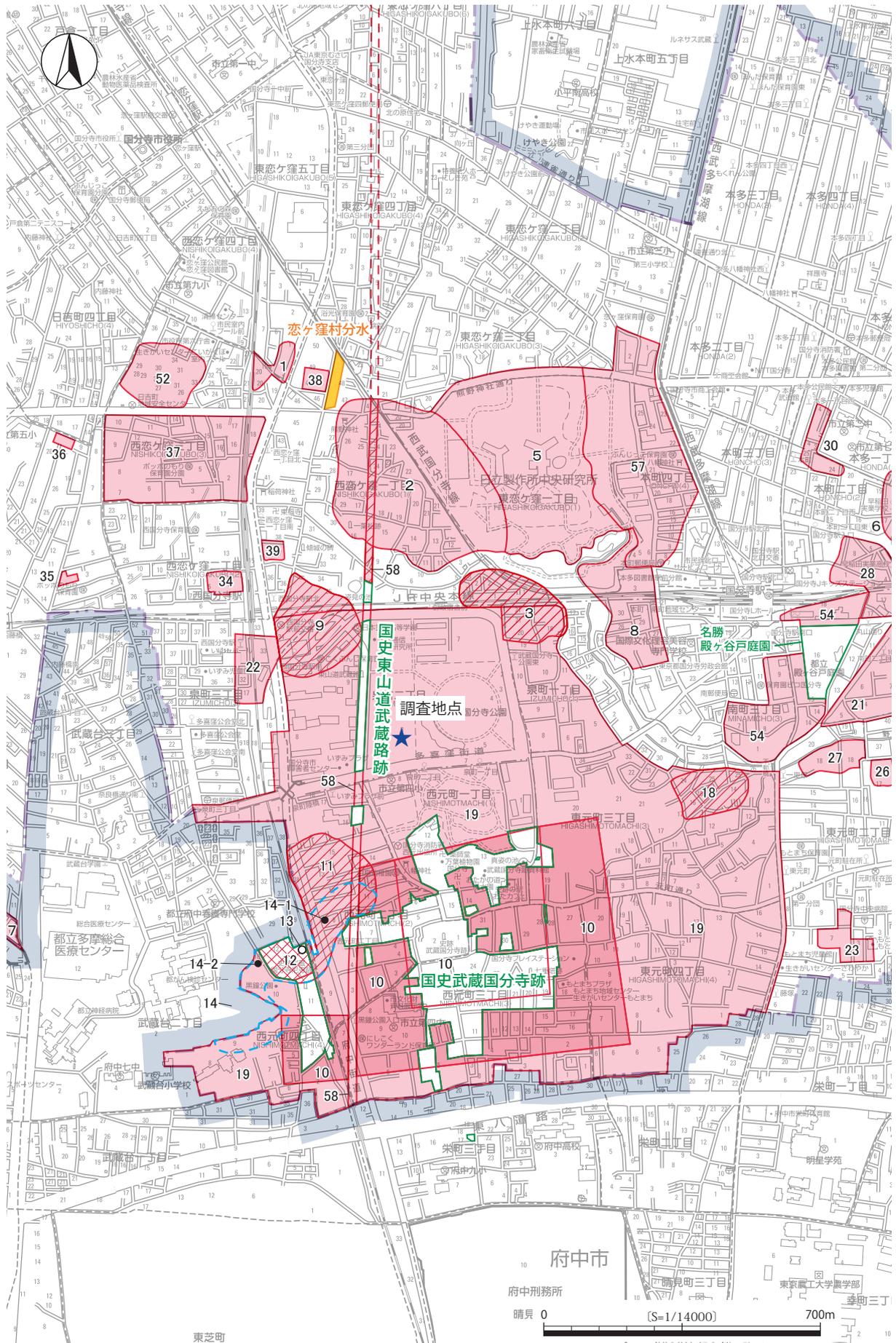
中世以降では、古代「東山道武蔵路」の路線をほぼ踏襲したとみられる伝鎌倉街道上道が、国分尼寺の伽藍を貫き、北側の台地に切り通しを作り、現府中街道の西側から西国分寺駅の東側に向かって南北に通過している。尼寺の北側の舌状台地には伝祥応寺跡があり、伝鎌倉街道に東面する土塁に囲まれた小規模な礫石を有する建物跡が検出されている。さらに北の西国分寺駅の南には恋ヶ窪廢寺跡があり、鎌倉街道に東面する溝跡や礫石建物跡、掘立柱建物跡、土橋状遺構、火葬墓等の遺構が多数検出されており、出土遺物などから 13 世紀末～15 世紀末頃の寺跡として位置付けられている。このほか西国分寺駅の周辺域からは 13 世紀末の地下式土壙や 15 世紀末の瀬戸系灰釉華瓶などが検出されているなど該期の遺跡の多くは、その路線に沿って立地している。

近世初期までの武蔵野開発は、比較的水の便に恵まれていた台地の周縁部で、水田化ができる場所に限られていた。本調査地は国分寺村に含まれてる。国分寺村を含む北多摩郡は、幕末から明治前期にかけては典型的な畑作地帯で、また畑方の商業的農業も発達していなかったため、武蔵国内でも農業的に貧しい地域であった。しかし、明治 22 年になると国分寺村に 9 村が合併し、甲武鉄道が開通した。明治 27（1894）年には川越鉄道が開通し、国分寺村は 2 本の鉄道の分岐点としてその後の発展の条件を得た。駅前集落が発展する中、大正 3（1914）年、第一次世界大戦が始まり、国内の土地の価格は戦争の好景気で高騰した。そこで国分寺村の有力者は村の発展につながると考え、別荘誘致に積極的に取り組んだ。江口別荘、竹尾別荘、天野別荘、渡辺別荘、豊原別荘、高島別荘、今村別荘に代表される。昭和 15（1940）年、都市計画法が制定され、国分寺村は国分寺町となった。同年、日立中研が今村別荘地を買収し、昭和 17（1942）年、日立中研を創設した。また本調査地には、昭和 19（1944）年ごろから鉄道院職員中央教習所の施設整備が始まり、戦後の昭和 28（1953）年 9 月に三島鉄道教習所と合わせて中央鉄道教習所として移転した。中央鉄道教習所は昭和 36（1961）年に中央鉄道学園と改称し、昭和 61（1987）年に閉鎖されるまで本調査地にあった。以後、跡地は総務省、東京都、国分寺市などに売却され、現在に至っている。



第5図 調査地点位置図

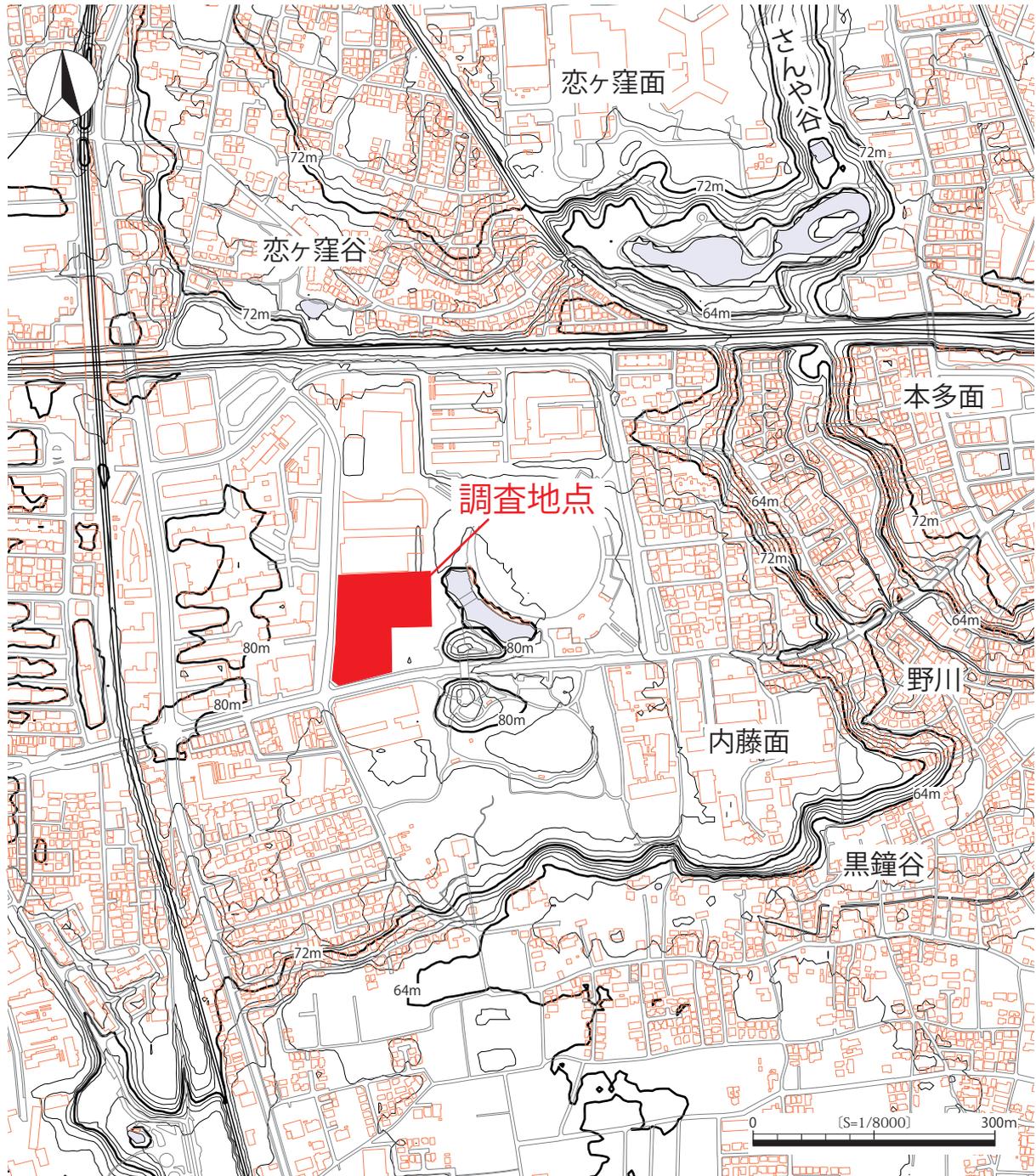
(この地図は東京都縮尺 1/2,500 地形図 (平成 27 年度 DVD 版) を使用したものである。)



第6図 周辺遺跡

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	名称	種別	所在地	時代
1	熊ノ郷遺跡	集落跡	西恋ヶ窪三丁目 19・20、四丁目 1・6・7 付近	旧石器・縄文
2	恋ヶ窪遺跡	集落跡	西恋ヶ窪一丁目 3・11～30・47・51、東恋ヶ窪一丁目、三丁目 20・21 付近	旧石器・縄文（早・中・後）・奈良・平安・中世
3	恋ヶ窪南遺跡 ※一部 No.19 遺跡と重複	集落跡	恋ヶ窪一丁目 1～5・51、東恋ヶ窪一丁目、泉町一丁目 16～21 付近	旧石器・縄文（早・中）
5	羽根沢遺跡	集落跡	東恋ヶ窪一丁目、三丁目 1～3・5・18～20 付近	縄文（早・中）・奈良・平安
6	No.6 遺跡	散布地（包蔵地）	本町一丁目 2・7、二丁目 17～20、本多一丁目 1・2 付近	縄文（中）
7	多摩蘭坂遺跡 ※一部 No.50 遺跡と重複	集落跡	内藤一丁目 1・2・5・8～10、二丁目 1・2・11 付近	旧石器・縄文・奈良
8	花沢西遺跡	集落跡	南町三丁目 24・26～30、本町四丁目 2・3、泉町一丁目 14、東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文・弥生
9	日影山遺跡	散布地（包蔵地）	泉町二丁目 8～10、西恋ヶ窪一丁目 4・8・34～36 付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安・中世
10	武蔵国分寺跡（僧尼寺） ※ No.19 遺跡と重複 ※一部国指定史跡	社寺跡	西元町一丁目 1・2・13～15、西元町二丁目 1～7・9～14、西元町三丁目 2～31、西元町四丁目 1～5・9～10、東元町三丁目 9・18～20、東元町四丁目 6～10・19・20 付近	奈良・平安
11	多喜窪遺跡 ※一部 No.10・14・19・58 遺跡と重複	集落跡	西元町二丁目 4・7～16、四丁目 11・12 付近	旧石器・縄文（中）
12	伝祥応寺跡	社寺跡	西元町四丁目 11・12 付近	中世
13	No.13 遺跡	その他（塚）	西元町四丁目 11 付近	中世
14 14-1 14-2	多喜窪横穴墓群 多喜窪横穴墓 1号 多喜窪横穴墓 2号 ※一部 No.10・11・19・58 遺跡と重複	横穴墓	西元町二丁目 7～12、四丁目 8～12 付近	奈良
18	八幡前遺跡 ※ No.19 遺跡と重複	散布地（包蔵地）	東元町三丁目 12・14～16・24～27 付近	縄文（中・後）
19	武蔵国分寺跡 ※ No.3・9・10・11・14・18・58 遺跡と重複 ※一部国指定史跡	集落跡	西元町一丁目～四丁目、東元町二丁目 5～8・13～15・18、東元町三丁目 1～27・30～34、四丁目、泉町一丁目 5～11・17～21、二丁目、泉町三丁目 1～4・6・16 付近	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
21	殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	南町二丁目 1～11・13・14、東元町一丁目 13・38～40、二丁目 19 付近	旧石器・縄文（早・中）
22	恋ヶ窪廃寺跡	社寺跡	泉町三丁目 16・17・27・30～33・35・36 付近	縄文・平安・中世
23	No.23 遺跡	散布地（包蔵地）	東元町二丁目 3・7・9 付近	縄文・奈良・平安
26	No.26 遺跡	散布地（包蔵地）	東元町二丁目 17 付近	縄文・奈良・平安
27	No.27 遺跡	散布地（包蔵地）	東元町二丁目 18 付近	縄文（中）
28	本町（国分寺村：石器時代）遺跡	集落跡	本町二丁目 1～9、南町二丁目 17 付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
30	No.30 遺跡	散布地（包蔵地）	本多一丁目 3・4、本町二丁目 20・24・25 付近	縄文・奈良・平安
34	No.34 遺跡	散布地（包蔵地）	西恋ヶ窪二丁目 3 付近	縄文・奈良・平安
35	No.35 遺跡	散布地（包蔵地）	日吉町一丁目 3 付近	縄文（中）
36	No.36 遺跡	散布地（包蔵地）	日吉町一丁目 27・28 付近	縄文
37	No.37 遺跡	散布地（包蔵地）	西恋ヶ窪三丁目 1～3・5～18 付近	旧石器・縄文・奈良・平安
38	No.38 遺跡	散布地（包蔵地）	西恋ヶ窪一丁目 49 付近	縄文・奈良・平安
39	No.39 遺跡	散布地（包蔵地）	西恋ヶ窪一丁目 37・38 付近	縄文・奈良・平安
52	No.52 遺跡	散布地（包蔵地）	西恋ヶ窪三丁目 26～31・33～36 付近	旧石器・縄文
54	花沢東遺跡 ※一部国指定名勝	集落跡	南町二丁目 14～16・18、三丁目 1・7～11 付近	旧石器・縄文・奈良・平安
57	恋ヶ窪東遺跡	集落跡	本町四丁目 4～12・14～25、東恋ヶ窪一丁目、二丁目 1～3・5、東恋ヶ窪三丁目 1 付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
58	東山道武蔵路 ※ No.2・19 遺跡と重複 ※一部国指定史跡	その他（道路跡）	西恋ヶ窪一丁目 8・9・15～18・24・25・47、東恋ヶ窪三丁目 21、泉町二丁目 3・5～7・9・10、西元町二丁目 3・4・7・10・11・13～17、西元町三丁目 7・8、四丁目 1・2 付近	奈良・平安



第7図 周辺地形図

(電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成)

第3節 層序

調査地区は国分寺崖線段丘崖から北に約300mの武蔵野台地上の平坦地にあり、中央鉄道学園跡地にあたるため、ほぼ全面にわたり盛土が確認された。盛土からⅡd層にかけては調査区法面、Ⅲ層からⅩ層にかけては、旧石器試掘トレンチを利用し土層観察を行った。試掘トレンチ3・6・8・10・12（第9図）をそれぞれA～E地点とし西壁を観察した。また試掘トレンチ3・2・1をそれぞれF～H地点とし南壁を観察した（第8図）。層序区分は武蔵野台地標準層序にて示した。

D・E地点では立川ローム層Ⅷ層が確認された。また、南北方向では、Ⅴ層まではほぼ水平堆積であるが、Ⅵ層からは北方向へ下るような傾斜が認められた。さらに、東西方向でもⅤ層まではほぼ水平堆積であるが、Ⅵ層からは東方向へ下がる傾斜が認められた。

各層の特徴は、以下の通りである。なお、F・G地点におけるⅡd層は攪乱より上位にあるが、標準土層が一部残存していたものである。

盛土 現代の盛土層。中央鉄道学園由来の層も含む。

Ⅰ層 10YR2/1 黒色土。締り弱く、粘性もやや弱い。粒子が粗い。近代～現代耕作土。

Ⅱd層 10YR5/6 黄褐色土。締りやや弱く、粘性がある。赤色スコリアを多量に含む。縄文時代遺構検出層。

Ⅲ層 10YR6/6 明黄褐色土。締り弱く、粘性がある。ソフトローム層。赤色スコリアを多量に含む。

Ⅳa層 10YR7/6 明黄褐色土。締りやや弱く、粘性が強い。ハードローム層。Ⅳ層は色調、締り、粘性によりa、b、cの3層に分けられる。赤色・黒色スコリアを多量に含む。

Ⅳb層 10YR7/6 明黄褐色土。締り強く、粘性がやや弱い。Ⅳa層ブロックが混じる。赤色・黒色スコリアを多量に含む。

Ⅳc層 10YR7/6 明黄褐色土。締り強く、粘性も強い。Ⅳa層ブロックが混じる。赤色・黒色スコリアを多量に含む。

Ⅴa層 10YR5/6 黄褐色土。締り強く、粘性も強い。赤色・黒色スコリアを多量に含む。

Ⅴb層 10YR3/4 暗褐色土。締り強く、粘性も強い。第Ⅰ黒色帯。赤色・黒色スコリアを少量含む。

Ⅵ層 10YR5/6 黄褐色土。黄色強く、明るい。締り強く、粘性は弱い。AT層。削るとジャリジャリする。

Ⅶa層 10YR3/3 暗褐色土。締りやや弱く、粘性が強い。第Ⅱ黒色帯。赤色・黒色・灰色・青色スコリアを含む。

Ⅶb層 10YR2/3 黒褐色土。締り強く、粘性も強い。赤色・黒色・灰色・青色スコリアを含む。

Ⅷ層 10YR4/6 褐色土。締り強く、粘性も強い。明るいロームブロックが多量に混じる。赤色・黒色・灰色・青色スコリアを含む。

Ⅸa層 10YR2/2 黒褐色土。締り強く、粘性も強い。赤色・黒色・灰色・青色スコリアを含む。

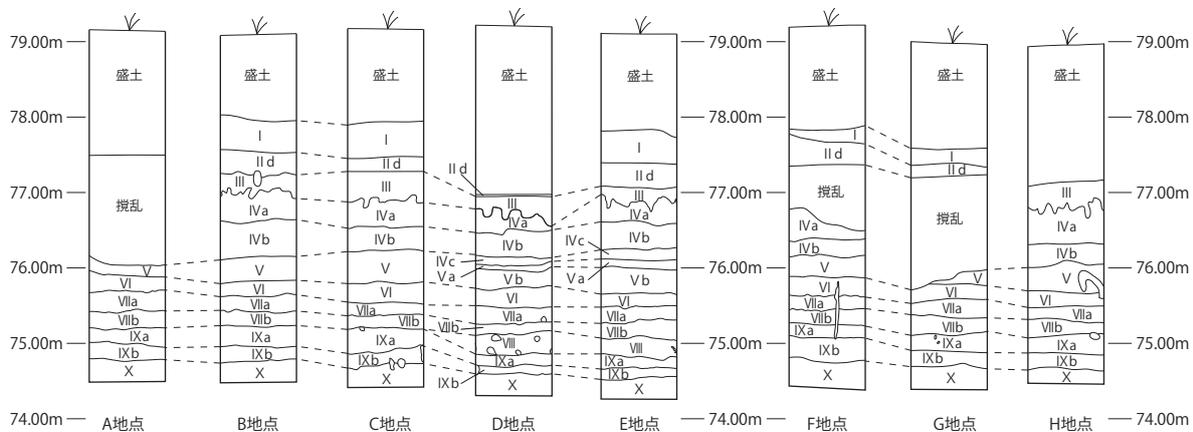
Ⅸb層 10YR2/2 黒褐色土。締り強く、粘性も強い。赤色・黒色・灰色・青色スコリアを含む。

Ⅹ層 10YR6/6 明黄褐色土。締り強く、粘性も強い。粒子細かい。灰色スコリアを含む。



調査全体図

0 [S=1/1000] 20m



調査区西壁柱状図

調査区南壁柱状図

0 [S=1/100] 2m

第8図 調査全体図・基本層序

第2章 調査経過

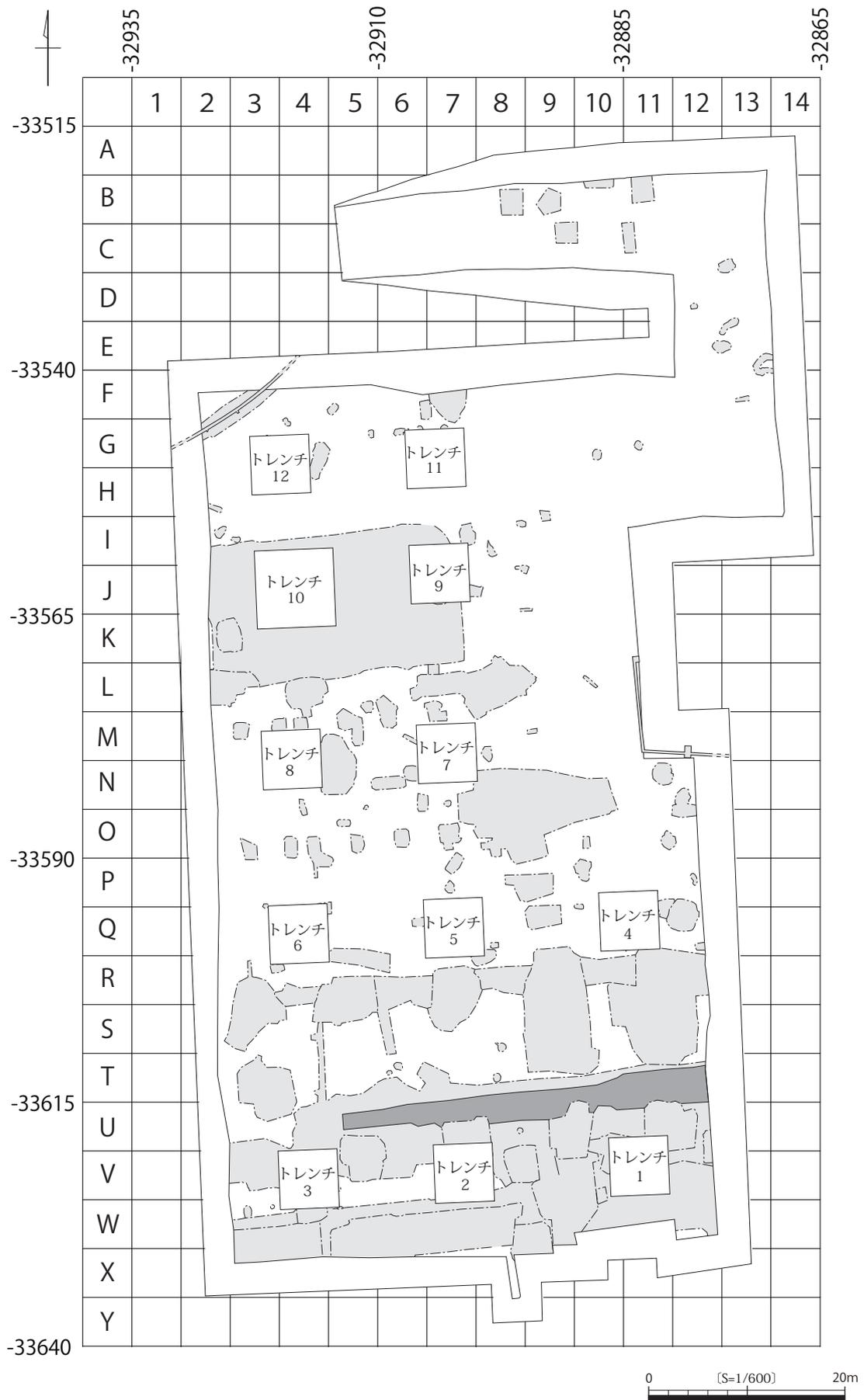
第1節 調査経過

発掘調査

- 令和4年3月16日 準備工を開始した。
- 3月16日～22日 桜伐採及び搬出を行った。
- 17日 嘉代子桜の植樹を行った。
- 4月7日 表土掘削を開始した。
調査区の3次元群計測のため、野口淳先生が来跡。
- 4月8日 遺構検出作業を開始した。また排出土搬出を開始した。
- 6月26日 現地説明会を開催した。今回新たな試みとして、関東ローム層観察ゾーンを設け、両刃鎌を使用し、関東ローム層の精査と観察の体験を行った。(第2章第2節)。
- 7月14日 ドローンによる全景空撮を行った。
- 7月28日 旧石器調査のためのトレンチ掘削を開始した。
- 8月25日 ドローンによる2回目の全景空撮を行った。
- 8月31日 調査を終了した。

整理調査

- 令和4年9月1日 テイクイトレード株式会社小平整理室にて遺物洗浄と遺構図面整理を開始した。
- 11月2日 遺物の図化作業を開始した。
- 令和5年2月21日 報告書原稿執筆を開始した。
- 10月13日 報告書編集作業を開始した。
- 令和6年1月24日 納品準備を開始した。
- 3月29日 本報告書の刊行・発送をもって全ての調査を終了した。



第9図 遺構配置図 (旧石器時代)



第 10 図 遺構配置図 (縄文時代・その他)

第 2 節 発掘調査現場見学会実施報告

令和 4 年 3 月から実施した発掘調査について、調査で見つかった各時代の遺構や土層堆積の様相を公開することにより、国分寺市の歴史や新庁舎建設事業の周知を行うことを目的として、下記のとおり発掘調査現場見学会を実施した。

会場は、当該地区の歴史的な変遷をパネルにするとともに、①鉄道学園関連遺構見学ゾーン、②関東ローム層観察ゾーン、③縄文時代遺構ゾーン、④出土品展示ブースに見学箇所を分け、来場者の興味に沿った行事を開催した。

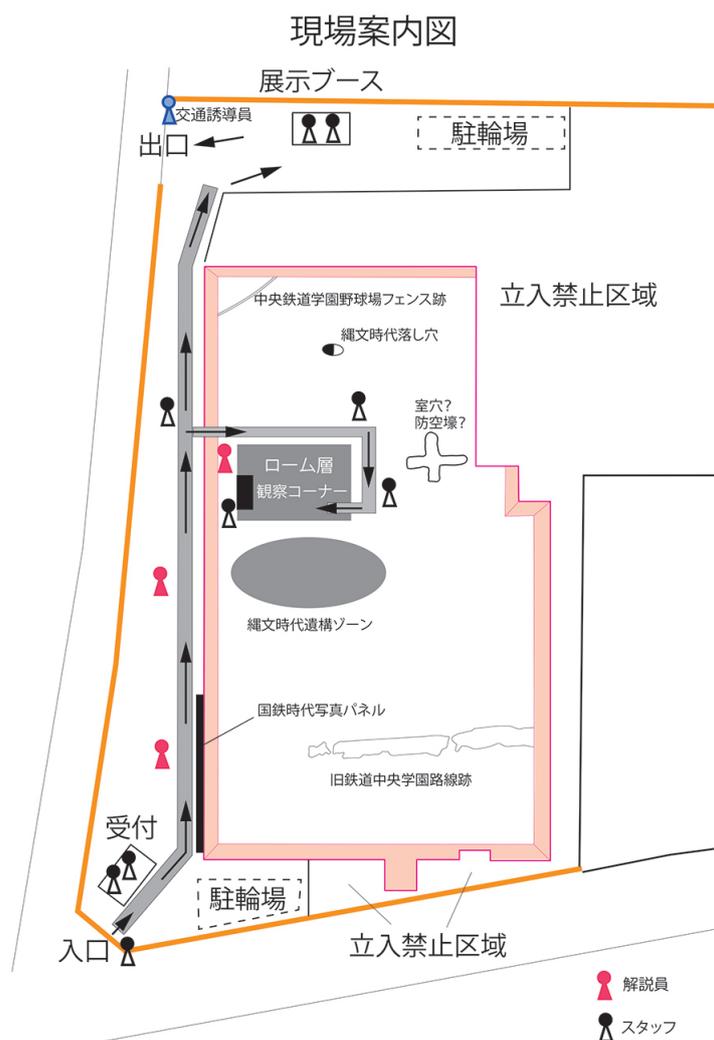
なお、北に隣接する都立多摩図書館では、令和 4 年 6 月 3 日～8 月 31 日に開催していた企画展「鉄道開業 150 周年記念 子どもの本と時刻表でたどる鉄道の歴史展」にあわせ、7 月 8 日から市教委が「武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念事業 泉町の発掘調査から」として本調査の速報と、中央鉄道学園時代の写真、さらに平成 24 年に行われた都立多摩図書館建設に伴う発掘調査（MK686 次調査）の概要の展示を行った。

日 時：令和 4 年 6 月 26 日（日） 午前 10 時 30 分から午後 3 時

場 所：泉町一丁目 102 番地 9 新庁舎建設用地

来場者数：315 人

アンケート集計結果（回答 202 人・回収率 64.1%）



第3表 発掘調査現場見学会アンケート集計結果

武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年記念事業
 国分寺市新庁舎建設に伴う発掘調査現場見学会 アンケート集計結果
 令和4年6月26日(日) 参加者 315名
 アンケート回答者 202名 回収率 64.1%

①ご年齢

(人)

中学生以下	高校生以上 ～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	回答なし
30	10	18	44	40	33	21	6	3

※複数に回答あり

②お住まい

国分寺市	162	泉町 (51), 西元町 (9), 西恋ヶ窪 (6), 市内その他及びチェックなし (96)
東京都 26 市	27	府中市 (5), 八王子市・小金井市・小平市・国立市 (各 3), 立川市 (2), 青梅市・昭島市・町田市・東大和市・武蔵村山市 (各 1), 回答なし (3)
東京都 23 区	6	練馬区 (3), 世田谷区 (2), 品川区 (1)
東京都以外	5	
回答なし	2	

③イベント情報はどちらでお知りになりましたか？(複数回答可)

市報	121	
ホームページ	23	
ツイッター	7	
その他	56	Facebook など SNS(7), 近所・通りかかり (21), 家族・知人から (15), 市役所で (4), チラシ (1), 回答なし (8)
回答なし	7	

④見学の目的はなんですか？(複数回答可)

埋蔵文化財	127
鉄道	88
新庁舎	34
地層	98
回答なし	2

⑤満足しましたか？

大変満足	94
満足	87
普通	16
やや不満	2
不満	0
回答なし	3

⑥一番楽しかった場所はどこですか？

鉄道学園路線跡ゾーン	55
縄文時代遺構ゾーン	72
ローム層観察ゾーン	126
回答なし	5

※複数回答あり



写真3 発掘調査現場遠景（北西から）



写真4 入口



写真5 受付



写真6 入場券



写真7 開会挨拶



写真8 見学風景



写真9 鉄道学園関連遺構ゾーン



写真10 鉄道学園写真パネル

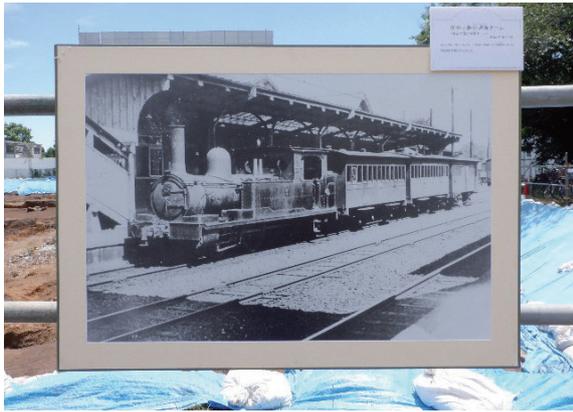


写真 11 国鉄時代写真パネル



写真 12 新幹線0系車両写真パネル



写真 13 関東ローム層観察ゾーン



写真 14 関東ローム層観察ゾーン掘削体験



写真 15 縄文時代遺構ゾーン落とし穴



写真 16 説明風景



写真 17 出土品展示ブース



写真 18 出土品説明風景



写真 19 出土遺物①



写真 20 出土遺物②



写真 21 出土遺物③



写真 22 出土遺物④



写真 23 都立多摩図書館企画展示
「子供の本と時刻表でたどる鉄道の歴史」①



写真 24 都立多摩図書館企画展示
「子供の本と時刻表でたどる鉄道の歴史」②

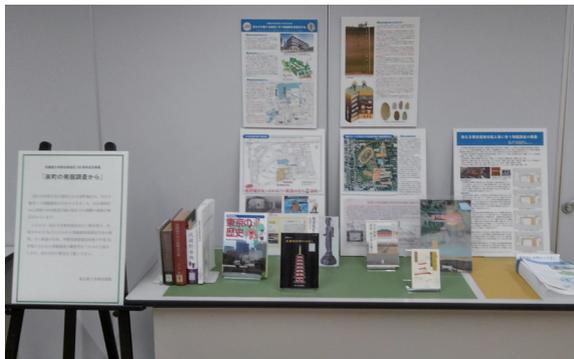


写真 25 都立多摩図書館企画展示「武蔵国分寺跡指定 100周年記念事業 泉町の発掘調査から」①



写真 26 都立多摩図書館企画展示「武蔵国分寺跡指定 100周年記念事業 泉町の発掘調査から」②

武蔵国分寺跡史跡指定100周年記念事業
 国分寺市新庁舎建設に伴う発掘調査現場見学会
 ◆令和4年(2022)6月26日(日) ◆国分寺市・国分寺町教育委員会・テイケイホール株式会社



未来に向けて生まれ変わる庁舎
 国分寺市では、行政サービスの拠点を集約し、内閣府市民サービス提供拠点として、地産等の災害拠点としても十分な機能を備えた新庁舎の建設に向けて仮設庁舎を建設しています。
 新庁舎は延床面積4,397.53㎡、延床面積21,815.82㎡、地下1階、地上5階建て、鉄骨コンクリート造の免震構造で、令和4年中に建設工事を着手し、同7年1月に供用開始の予定です(令和4年1月公表国分寺市新庁舎建設 基本設計説明書より)。

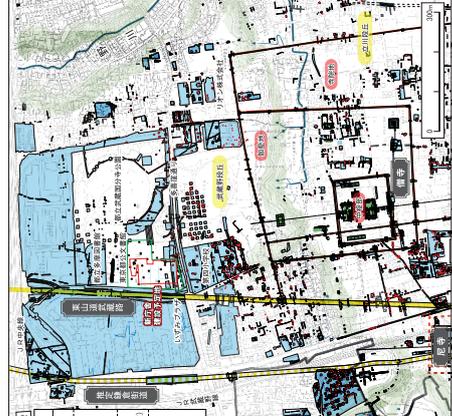


国分寺市の地形
 多摩川・入間川・荒川等の流域に採られた武蔵野台地は、古多摩川が関東山地から荒川まで防砂層を構築して、その上に関東ローマ層が厚く堆積した地形で、青梅付近から東へ徐々に傾斜を下げながら、約50kmにもおよぶ扇状地形に広がっています。その中央やや南側部に位置する国分寺市域には、**国分寺麓**を挟んで北側の「立川段丘」(標高55～66m)の河原段丘があり、前者は約6万年前、後者は約4万年前にそれぞれ古多摩川が離れて形成されました。その後、おもに富士や箱根由来の火山灰が降り積もりながら、多摩川の各河川にそれぞれ武蔵野段丘の縁辺部を形成して幾つもの小さな谷を刻み、谷筋からは豊富な湧水が湧出しています。

武蔵国分寺と新庁舎建設予定地

新庁舎建設地の東明二丁目付近は、JR中央線が定常急行の谷と国分寺麓線に採られた標高約80mの武蔵野段丘上にあり、「武蔵国分寺段丘(No.19)遺跡」と呼ばれる埋蔵文化財包蔵地に該当します。これまで周辺では、開削に伴う発掘調査を数多く実施し、旧石器・縄文時代の、奈良・平安時代、中～近世の遺構や遺物が発見されました。市では新庁舎建設工事に伴う発掘調査を3～8月の予定で進めています。

また、**調査地は古代武蔵国分寺の加茂地・寺院地の北方近傍地に位置し、現在のリオン株式会社構内付近から市立第四小学校を経て、都立多摩総合医療センターにかけての一帯は、国分寺を支えた庶民の暮らしが多数確認され、調査地点西側は東山道武蔵路が南北に縦貫しています。**
 発掘調査の結果、こうした居住者が暮らし並ぶ古代の集落範囲は、現在の多摩川沿いに付帯より階層にかけ広がる様相が顕著し、それは地下の湧水を生活の源としていたためと想われます。



調査地と周辺の発掘調査状況(奈良・平安時代を中心に)

国分寺市の遺跡で見られる地層の特徴

国分寺市内の遺跡では、通常、以下に示すような地層の堆積が確認され、地表に近い上層から下層に向かって、順にI～X層のローマ層を述べていきます。

まず、現在の地層が生活している地表面付近の地層が表土の「I層」で、建物や遺構を造る際に整地した盛土や掘削土を指します。谷筋などの地層が厚く堆積しているところでは、耕作土の「II層」が写実4年(1707)に噴出した火山灰をみます。この火山灰は関東一帯に降灰して、多くの農作物に影響をおよぼしました。遺跡の発掘調査では、多くの場合、重傷を用いながら「I層」を取除いていきます。

その下には、奈良・平安時代～中世の遺物を含み、黒褐色土(黒味強い土)が堆積し、「II層」と呼ばれます。II層の上面で、I層を覆土とする近世～現代の遺構を確認できます。

II層の下には縄文時代の遺物を含み、褐色土を主体とする「III層」が堆積し、色調の違い、等によりIIIa～IIIc層に細分化されています。III層上面でIII層を覆土とする奈良・平安時代～中世の遺構を確認でき、さらにIIIb層中には縄文時代中期(約4,000～5,000年前)、IIIc層中には縄文時代早～前期(6,000～8,000年前)の遺物を含んでいます。これらの地層下部で、縄文時代の遺構を確認します。

左の写真は、新庁舎建設地と同じ武蔵野段丘上に立地し、市内の内藤二丁目付近に所在する多摩川段遺跡の地層堆積状況を示したものです。写真上方の方の黒く見える部分が、いわゆる「黒ボウ土」で、黄色く見える部分が「関東ローマ層」になります。

黒ボウ土が黒く見えるのは、微細な炭を多く含むためで、この炭は自然界には存在せず、縄文時代の焼き畑によって生成されたという学説があります。関東ローマ層とは、富士山や箱根の火山灰が降り積もった後、風化・乾燥して固く上げられ、再び積もって土に定着したものです。関東ローマ層中には約12,000年前を基盤とする旧石器時代の遺跡が確認されていることがあり、色の違いや含有鉱物によって市内では「I層」を「IV層」～「X層」と区分しています。

このうち、「IV層」と「X層」付近は上下の地層に比べて色味が強く、「暗色帯」・「黒色帯」あるいは「ブラックバンド」と呼ばれています。黒く見える原因は、草などの植物が腐った腐敗土が多くあつたためと考えられています。暗色帯に採れた「IV層」は、AT(奈良丹波火山灰)層とも呼ばれ、上下の地層より色調が異なる特徴があります。これは層中にガラスの火山灰が多量に含まれるため、今から約24,000年～28,000年前に鹿児島島の阿蘇山から飛来してきたものです。このよつな火山灰を伴った火山灰と重なり、日本各地の地層の年代を対比する鍵となっています。新庁舎建設地南側の国分寺消防署建設地内で行われた発掘調査では、AT層より上のV層中からガイ型石礫が確認されています。

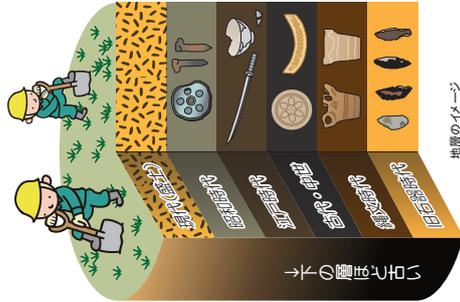
なお、多摩川段遺跡や府中市武蔵台遺跡(都立多摩総合医療センター内)からは、さらに遡って約35,000年前にあたるX層中から石礫が出土しています。



市内最古の旧石器(多摩川段遺跡X層出土)



国分寺市内の遺跡で標準的に見られる地層の堆積状況(多摩川段遺跡)



地層のイメージ

第12図 発掘調査現場見学会会場パンフレット1・4頁

